

# 安寧

兵庫縣姫路護國神社報  
「安寧」第三十三号

発行所 兵庫縣 姫路護國神社  
〒670-0003 姫路市本町一八  
電話 〇七九-二三四-〇八九六  
安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なこと

## 英霊の言乃葉

神風特別攻撃隊 第三護皇白鷺隊 はくろ

海軍少尉 大谷 康佳 命

大正十五年生まれ(十九歳) 香川県出身  
第十八期乙種飛行予科練習生  
嘉手納沖艦船群特別攻撃において戦死

知っていますか  
命をかけて私たちを  
守ってくれた人たちのこと

あなたは知っていますか  
私たちのために戦った人たちのこと

あなたは聞こえますか  
私たちを守ってくれた人たちの声

あなたはわかりますか  
私たちがのために戦った人たちの思い

令和七年(二〇二五)は終戦より八十年目の年です  
全国に五十二社鎮座する護國神社は  
日本を守るために戦死された  
二百四十六万余柱のみたまをお祀りし  
日々平和を祈念しています

令和七年は終戦八十年



父母並に兄弟、諸先生の御恩に感謝する。父母には  
何の孝行もせず死んで行きます。此の死は決して犬死  
にはしない覚悟です。敵の空母に体当して見せます。  
何時迄も神州を護ります。

今、敬子より送ってもらった千人針も腹にしっかりと  
巻いています。又、敬子手製のフランス人形も私の飛  
行機に乗って敵空母に体当たり致します。先日も一ノ宮  
の上空を通りました。そうして皆の健在を祈りながら  
此の地に来ました。今となっては思ひ残す事は何も在り  
ません。我が死ねば今迄の不幸も許て下さると思ひます。

祖父母、父母、姉、妹によろしく。

丁度私の分隊に池西の栗永と言ふ人がゐる故、いろ  
いろの事は此の人にたずねられたし。

昭和二十年四月五日

宇佐空にて 和気隊白鷺隊 大谷康佳

(注) 文中の「栗永<sup>くりなが</sup>」さんは、平成二十八年三月、姫路護國神社の第五回  
「戦士の証言」講演会においてお話しいただいた栗永照彦さん(令和五年に逝去)  
のことです。当時の栗永さんのインタビュー動画、講演録はそれぞれQRコード  
を読み取ってご覧ください。また、「白鷺隊」については七ページをご覧ください。



インタビュー動画  
(兵庫縣姫路護國神社  
YouTubeチャンネル)



講演録「安寧」第16号  
(PDFファイルで開きます)

# 令和六年 秋季例大祭 齋行

十一月二日 午前十時三十分

秋深い社殿で一年後の終戦八十年臨時大祭に向けて、様々な計画が練られる中、約三百五十名の御遺族崇敬者が参列のもと恒例の秋季例大祭が斎行された。

午前十時三十分号鼓とともに宮司以下祭員、三木英一大祭委員長、三宅知行崇敬奉賛会長等が本殿に参進、参列者全員で「ご英霊に一礼をした後、君が代斉唱と続き祭典が始まった。

ご祭神のご本籍は播磨但馬全域であるが、遠くの御遺族は地域でバスを仕立てての参列である。境内に設営されたテントの中でご自身の縁の御祭



宮司玉串拝礼

神に思いをはせられる遺児や御兄弟。ご生前をご存じでない御遺族も多くいらつしやる。参列していた崇敬奉賛会の一青年はこの祭典を通じてご英霊



姫路市民合唱団

の当時の御心情を知ろうと思うと関係者に話されていた。

この大祭は、姫路郷友会の受付奉仕、裏千家茶道淡交会、霊友会、隊友会姫路支部、姫路市民合唱団、城東校区生涯クラブ等たくさんの方々の献身的なご奉仕で行われている。

## 令和七年お正月 新年万燈祭

元旦〜十日

全国的に好天に恵まれ、当地方も穏やかなお正月で二千灯に及ぶ奉納提灯の下、今年の幸を祈る沢山の参拝客で境内がにぎわった。恒例の御親族縁の御祭神の提燈を採す子供たちの姿を、ご英霊も微笑ましくお感じであろう。

三が日は、詩吟や尺八の神前演奏、姫路剣道連盟の初稽古奉告祭、厄除け祈願、仕事始めの六日



境内を埋め尽くす二千灯の提燈

以降は会社団体の祈願祭で社頭はあふれた。令和の幕開けから続いている正月の御朱印を求める人たちが列をなした。今年も季節限定の御朱印が二ヶ月に一度更新されていく。

## 崇敬奉賛会 新年祈願祭

一月十三日

皇紀二六八五年・昭和百年を迎えた一月十三日、崇敬奉賛会新年祈願祭が斎行された。成人の日となった当日は、早朝より晴れ着姿の新成人がお参

りする姿があり、お社を背景に記念撮影をされている姿が印象的であった。新年の華やいだ境内とはまた違った趣のある境内のなか、午前十一時より本殿において祭典を行った。

祈願祭の参加者は六十名であった。



金谷靖子様による箏の奉納演奏

参拝の中で、「ご英霊」のために金谷靖子様が心を込め箏の奉納演奏「さくら舞曲」と金谷社中の中学生と大学生による献茶と御呈茶が御奉仕された。

参拝の締めくくりに、泉宮司よ

り本年の干支のお話を伺った。乙巳(きのとみ)の年は、多くの人にとって成長と結実の時期となる可能性が高くなり、これまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆していると



中学生と大学生による献茶

引き続き、十一時五十分からは、参集殿二階において、直会に移り会員相互の親睦を深める機会となった。国歌斉唱の後、姫路交響楽団所属・護國神社音楽隊長による清興が行われた。前川美加氏によるバイオリンの独奏は、楽曲「早春賦」「千の風になって」「情熱大陸」の三曲が披露された。

その後は、各テーブルより代表者を選び、新年の誓いや一年の抱負を述べる機会が設けられた。また本年は終戦より八十年を迎える節目の年であり、神社での記念事業も数多く予定されているため、代表者たちは今年の神社への思いや、事業への協力などとともに新年の思いを述べられた。

直会は、盛会のうちに開きとなり、この会を通じて、会員相互の絆がさらに深まったことはもちろんのこと、いろいろな方のお話をお聞きする中で、改めて今年一年のスタートが素晴らしい機会だと感じたひと時であった。



盛会の直会

(文責 崇敬奉賛会理事 尼子尚公)

**天皇后両陛下 一月十六日**  
**兵庫県行幸啓 十七日**

両陛下には阪神淡路大震災三十年追悼式典ご臨席に併せて地方事情ご視察のため一月十六日から十七日にかけて兵庫県に行幸啓あそばされた。ま

た両陛下には行幸啓にあたり県内の旧官国幣社および旧指定護國神社に幣饌料をお供えになった。当社では一月十六日午後五時五十分から神戸市の行在所で侍従長より伝達式があり宮司、彌宜出向し拝受、二月一日当社本殿に於いて、九時五十分から幣饌料奉獻奉告祭を執行した。

**建国祭 二月十一日(建国記念の日)**

好天に恵まれた二月十一日、皇紀二千六百八十五年の建国祭が「建国を祝う会姫路実行委員会」(姫路郷友会・霊友会・隊友会・日本会議)の主催で行われた。



内は二百名あまりの参加者で賑わった。

第一部は「三大神勅と神武天皇のご即位について」と題して、我が国がどのように生まれたのか、最初の天皇即位について、三木英一実行委員長が



主催者側のお世話で、コーヒーやぜんざい、豚汁などが販売されて、境

分かりやすく  
講義してくだ  
さった。

続けて、声  
楽家・大野一  
道氏による指  
導で「紀元節」  
の歌の練習が  
あり、午前十一  
時より神事、奉  
祝式典が斎行  
された。

練習の効果があつたかのように、子供たちのリード  
による歌声が大きな声で聞こえたのが印象的だった。

(文責 崇敬奉賛会常任理事 木南一志)



講演会

# 天長祭斎行

二月二十三日

天皇陛下には六  
十五歳を迎えられ、  
当社でも陛下のご  
長寿と御皇室の安  
泰を祈る天長祭が  
斎行された。

姫路城マラソン  
の一部スタートが  
神社鳥居前で行わ



大西由香里氏の 歌唱奉納

れ交通規制があつたが、恒例どおり、十一時より総  
代、崇敬奉賛会、崇敬者参列の中で厳粛に行われ、  
たつの市に在住崇敬者の大西由香里氏の「春よ来い」

歌唱奉納(ピアノ  
伴奏大谷祐美氏)、  
また三木総代会長  
の挨拶、三宅崇敬  
奉賛会会長の乾杯  
で始まった直会で  
も「早春賦」など  
童謡をみんなで和  
やかに歌い、崇敬  
奉賛会三枝常任理  
事万歳三唱で陛下  
のご長寿を祈った。



## ご遺族の手紙

昭和20年2月23日戦死 松本兼治命 長女 御遺族 松本昌代様のお手紙

御遺族の松本昌代氏が命日祭参列の際、是非御父上で  
あるご祭神に奉読したいとお申し出があり、ご本人の  
ご承諾を得て掲載する。

(中略)

お父様達多くのご英霊の皆様方の大きなご加護に  
より、本日この場に何とか立たせていたことが  
出来感謝の念で一杯でございます。

ほんとうに有難うございました。

顧みますと戦後復員船が帰還する度に新聞紙上に  
掲載される多くの復員者名簿、その様な中で夜ともな  
れば灯火管制の敷かれた暗い電灯の下で母と幼い私  
達姉妹は頭をくっつけ、どれ程お父さまあなたのお  
名前を新聞紙上で毎晩く探し求めたことでしょうか。

又、夜 雨戸を叩く風の音にも「ハッ」として「も  
しやお父さまでは」と何度飛び起きたことでしょうか。

お父さま あなたは一番下の妹の誕生後二十日目  
もあり、母の産後二十日目に私達三人の幼子を含め  
五人を残して出征されました。どんなにお辛かった  
事でしょう。私は今でもお父さまのお気持を察すると  
胸張り裂けるばかりでございます。

残されました命はほんのわずかでございますが、大  
事になんとか悔いの残らないよう心して日々過ごして  
参りたいと思っております。

お父さま どうぞお見守り下さいませ。

二〇二五(令七)二月二十二日

最も尊敬するお父さまへ

まさよ

・ 幼児を四人残して 征きし父

息絶える時 何を想ひぬ

・ 今日もまた 父へのおもい つのりきて

便り読みつゝ 号泣をする

## シリーズ 英霊の戦場(二十四)

特攻隊員の思いを永遠に  
(海軍編)

## ■はじめに

特攻と言えば陸海軍共出撃数が圧倒的に多い航空特攻で日米双方の記録写真が沢山のこつている。

然し、特攻用航空機の生産や、航空燃料の不足化で、飛行学生として集められた多くの青少年隊員は、海上・海中特攻要員として養成され、徹底した奇襲戦法で出撃していったので記録写真は殆どない。夕闇の中、暗い操縦室と海中の中を潜望鏡を覗きながら、一人で敵艦を求めながら死を覚悟して潜航して行った隊員の姿を思うと胸が詰まるものがある。一部陸軍特攻も付記

## ■人間搭乗魚雷 略称：人間魚雷「回天」

発想は昭和十八年三月、竹間忠三大尉が軍令部に提案、同年十二月黒木博司中尉と仁科関少尉が、製造と訓練が容易との着想で、再提案、試作・改造・実験を重ねて翌年四月から搭乗員一名の案で量産を開始した。

八月正式兵器として採用。潜水艦に四基搭載可能に改造した潜水母艦も逐次投入された。

初陣は十九年十一月八日、比島ウルシー環礁に停泊中の連合艦隊を目標に母艦三隻、回天十二基搭載して出撃、四基発艦させ、一基が二万トの敵油槽船を撃沈、他の三基は湾内の岩礁に激突して沈没。特攻の難しさを知る。

この後、特攻の戦果を確認するまで回天発艦位置に留まった母艦が敵対潜哨戒艦に発見され撃沈されて未帰母艦が増えた。

回天の出撃は、二十年八月八日まで三十一回出撃、総計四二〇基、内敵艦隊泊地への出撃四八基、航行中の敵艦隊への出撃三二基、戦死者未帰還になった母艦八隻八一〇柱、回天一〇四柱。

回天特攻隊員 佐藤章海軍少尉「妻への遺書」  
昭和十九年十一月二十日ウルシー環礁で戦死  
まりえ殿

かねて覚悟し念願していた「海征かば」の名誉の出発の日が来た。日本男子として皇国の運命を背負って立つは当然のことであるが然しこれで俺も「日本男子」だぞと、自覚の念を強くして非常に嬉しい。短い間であったが、心からお世話になった。俺にとつては日本一の妻であった。

小生は何処に居ろうとも、君の身辺を守っている。正しい道を生き抜いてくれ。子供も、唯々々と育て上げてくれ、所詮偉くすることも、金持ちにする必要もない、日本の運命を背負って地下百尺の捨て石となる男子を育て上げよ、小生も立派に死んでくる。充分体に気をつけて栄え行く日本の姿を小生のおもいつつ強く正しく生き抜いてくれ。大東亜戦争出陣するに際して。 章

## ■特殊潜航艇(秘匿名：甲標的、略称：特潜)

着想は昭和六年に特攻兵器として研究開発されたが、人命尊重の思想から脱出装置付二人乗りで改造され、昭和九年頃から試作・改造され一部で訓練も開始されていた。

昭和十六年の真珠湾攻撃に五隻が参加して全隻

未帰還で戦死九軍神掲載のニュースは全国民が衝撃を受けると共に、若者に「特攻」の崇高な精神が受け入れられる素地となった。

戦果の有った作戦は、十七年五月三十日マダガスカル島デイゴオスワレス湾英国戦艦損傷・タンカー撃沈、六月一日オーストラリアのシドニー湾補給艦撃沈、豪州海軍は戦死した二十一柱の内六柱の特攻隊員を収容し、その勇敢さに敬意を表して海軍葬を以って葬られた。現在でも語り継がれている。特潜は改良されつつ終戦まで二五五隻建造された。戦死者四四〇柱

## ■特攻艇「震洋」(秘匿名：マルヨン④)

昭和十七年連合艦隊作戦参謀の黒島亀人大佐が提案。十九年四月量産開始。八月「震洋」と命名。初陣は比島のコレヒドール島を守るため派遣されたが、輸送船が撃沈され大半が海没した。残った震洋で米軍上陸時出撃したが上陸用舟艇に損傷を与えたものの戦果不明。

沖繩戦準備時は島の東海岸からの米軍上陸に備えて配備されていたが、上陸は西海岸であったことと、基地の空爆や出撃準備中の誘爆火災で、大半の「震洋」を失い、基地で出撃待機中及び陸上戦闘参加中に終戦を迎えた。

終戦まで六二〇〇隻建造、隊員七三〇〇名、後方支援要員二七〇〇〇名であった。戦死は一〇八一柱

## ■航空特攻

## ■単座有人滑空爆弾 略称：人間爆弾「桜花」

着想は昭和十九年五月大田正一少尉が提出、六月航空技術廠が研究開始、八月試作機の実験開始、

九月には量産開始と共に母機となる一式陸上攻撃機に懸架装置装着を急ぐ等慌ただしい兵器であった。十月桜花搭載専門の「神雷部隊」が発足。連合艦隊司令部は「桜花」を早急に使用すべく十二月十九日「桜花」三〇機と後方支援要員一五〇〇人乗せて空母「雲竜」で比島に向かったが沖繩近海で撃沈され、海没の不運な門出となった。



特攻隊員を見送る地元の人々

翌二十年三月二十一日、鹿屋から一式陸攻一八機（内一五機に「桜花」搭載）が出撃したが、敵艦隊の百キロ手前で全機撃墜された。以後単機の時差・悪天候下や夜間を利用して出撃したが大きな戦果を得られなまま五月二十二日終了した。

合計八〇〇機製造されたが出撃は一三一機。欠点は航続距離が短く、敵艦隊の直近まで行くしかなかった。

■ 三式中間練習機で米駆逐艦を撃沈

当初は特攻機の使用に反対されていた最高時速二百九十九キロしか出ない通称「赤とんぼ」と呼称された練習機に百二十五キロ爆弾を搭載して昭和二十年七月二十九日宮古島から五機が出撃し内一機がレーダー哨戒駆逐艦（艦名キヤラガン）への突入に成功、爆弾は機関室で爆発し火災と二次爆発で沈没した。特攻機で撃沈された最後の米艦となった。尚、翌三十日には三機が出撃し駆逐艦（艦名キャッシン・ヤング）を損傷させた。奇襲成功した要因は機体や翼が布張りでレーダーに捕捉され難かった。

■ 特記

水上特攻 戦艦大和艦隊況

大和の護衛艦隊として軽巡洋艦一隻、駆逐艦八隻で昭和二十年四月六日沖繩に向けて出撃、翌七日徳之島北方海域で米機動部隊の航空機三八六機の集中攻撃を受けて駆逐艦四隻を除いて沈没。



少年飛行隊員 この内の多くが特攻隊で出撃した

大和二七四〇柱 護衛艦隊九八二柱

■ 震天制空隊等によるB29体当たり（陸軍）

昭和十九年八月二十日北九州八幡製鉄所を目標に飛来したB29に三式複座戦闘機（屠龍）で迎撃に向かったが高角機砲での撃墜が不成功だったので咄嗟の判断で体当たりを試みたところ主翼に激突し、その衝撃で吹き飛んだB29のエンジンが後続のB29にも激突して二機が墜落する戦果が生じた。この日B29を一四機撃墜した。

以後米軍は高高度爆撃に変更、日本もB29特攻部隊を編成した。通常の迎撃機では高度一万メートルへ上昇するのに一時間掛かるので機銃や防弾装備を外して軽量化で対処した。

八月一日まで満州上空の五機を含めて五十四機が体当たりして六十二名が散華された。

■播磨から出撃した護皇白鷺隊

姫路海軍航空隊は昭和十八年十月加西郡（現加西市）九会村鶉野で開隊し、艦上攻撃機搭乗員を養成する部隊で、二カ月半の実戦用飛行機の訓練（三十時間の飛行時間）を終えた者が全国の各航空隊に赴任して行った。

また、同地では昭和十九年になって、川西航空機姫路製作所で製造された局地戦闘機「紫電」、「紫電改」の最終組立・試験飛行が行われていた。

昭和二十年二月八日、航空隊司令から特攻隊を編成する旨の訓示があり、希望者の伺いが出され、百名が志望した。二月十一日には、特攻隊員氏名が発表され、「白鷺隊（はくろたい）」と命名され、以降特攻訓練が開始された。

三月二十日、二十一日には高知、青島、徳島、百里原、鈴鹿の各航空隊から新たに四十数名が着任し、三月二十三日に九七式艦上攻撃機（操縦員・偵察員・電信員の三人乗り）三十数機が大分県宇佐基地に移動し、宇佐航空隊の特攻部隊と共に特攻訓練を実施した。

四月五日には鹿児島県串良基地に移動し、翌六日に「第一護皇白鷺隊」十三機、十二日に「第二護皇白鷺隊」四機、十六日に「第三護皇白鷺隊」二機、二十八日に「白鷺赤忠隊」一機、五月四日に「白鷺揚武隊」一機の計二十一機六十三名が沖繩方面に出撃し、戦死している。

九七艦上攻撃機は、最高速度が三百三十キロと遅く、八百キロ爆弾を搭載しての出撃であった。その多くが沖繩にたどり着くまでに撃墜された可能性があるが、各人の遺書に見られるように、特攻隊員達は国を守り、家族を守る気構えで出撃し、散

華したのであり、現在の日本を見守っておられることだろう。そして、姫路海軍航空隊跡（総称：鶉野飛行場跡）には平成十一年、「鶉野平和祈念の碑」が建立され、毎年十月に慰霊祭が行われている。また、白鷺隊員の遺徳を顕彰する鶉野飛行場資料館が近くに開設されている。



出撃前に笑顔で応える特攻隊員達（注 白鷺隊とは別の部隊の写真です）

■まとめ

今年を終戦八十年節目の年、国を護るために命を掛けて戦った特攻隊員の大部分は未婚の青少年でしたので直系の遺族は居ません。全国の護國神社では全ての御英霊に毎日感謝の祈りを捧げて慰霊されている。

参考文献

防衛省戦史叢書 本土方面海軍作戦  
鶉野飛行場資料館 所有史料

（文責 崇敬奉賛会理事 曾田孝一郎）

大東亜戦争終結八十年記念事業として  
当社境内に「特攻勇士の像」建立へ

大東亜戦争では、多くの方々が日本本土を守る為に特攻隊として飛び立ち散華されました。当社に於いても、百柱を超える特攻隊の方々をお祀りしています。

この度、その勇敢なご意思を永久に顕彰する為に、当社境内に「特攻勇士の像」を建立します。

除幕式は本年八月十五日の「令和七年英霊感謝祭・英霊顕彰の集い」にて行う予定です。

皆様には引き続き、終戦八十年事業へのご奉賛をお願い申し上げます。





令和七年は、大東亜戦争終結八十年の節目の年です。当社社では特別な催しを企画しています。この機会に、ぜひ兵庫縣姫路護國神社にご参拝下さい。

**5月2日**  
**(金)** 春の例大祭



特別講演 その1

皇室評論家 高清水有子  
「皇室の祈り 終戦80年を迎えて」  
大祭終了後13時より境内で開催予定

**8月11日**  
**(月・祝)**



特別講演 その2

麗澤大学准教授 ジェイソン・モーガン  
「アメリカ人が見た大東亜戦争」  
イーグレ姫路 あいめっせホール

**8月15日**  
**(金)** 英霊感謝祭



- ・「特攻勇士の像」除幕式
- ・ 英霊顕彰の集い  
特集「義烈空挺隊」

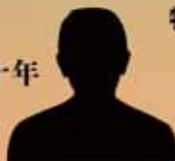
**9月28日**  
**(日)**



特別講演 その3

防人と歩む会 会長 葛城奈海  
「英霊が守りたかった日本とは」  
兵庫縣姫路護國神社 参集殿2階

**11月2日**  
**(日)** 大東亜戦争終結八十年  
臨時大祭



特別講演 その4

相応しい方をお迎えます  
ご期待下さい  
大祭終了後 境内で開催予定